

Financial Innovator
New Industry Creator
Self – evolution
Social Responsibility

2005年3月期 中間決算概況

ソフトバンク・インベストメント株式会社

2004年10月26日

「本資料に掲載されている事項は、ソフトバンク・インベストメント株式会社のご案内等のほか、当社の事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。」

1. 中間期 連結決算について

中間期 連結決算業績（前年同期比）

（単位：百万円）

	2005年3月 中間期 (2004年4月～2004年9月)	2004年3月 中間期 (2003年4月～2003年9月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	30,291	7,365	+311.3
営業利益	8,383	1,896	+342.0
経常利益	10,113	1,831	+452.0
当期純利益	7,235	779	+828.3

※ 2004年3月中間期の業績につきましては、旧イー・トレード(株)の連結業績のうち6月～9月が含まれております。

※ 2004年3月中間期の業績につきましては、ワールド日栄フロンティア証券(株)、フィデス証券(株)、ファイナンス・オール(株)およびその連結子会社の業績は含まれておりません。

※ 当中間期までに新たに連結子会社となった企業のうち、E*TRADE KOREA CO.,LTD.、スワン・クレジット(株)につきましては、期初からの業績が含まれております。エース証券(株)、モーニングスター(株)につきましては当中間期にその業績は含まれておりません。

2. 中間期 セグメント別概況

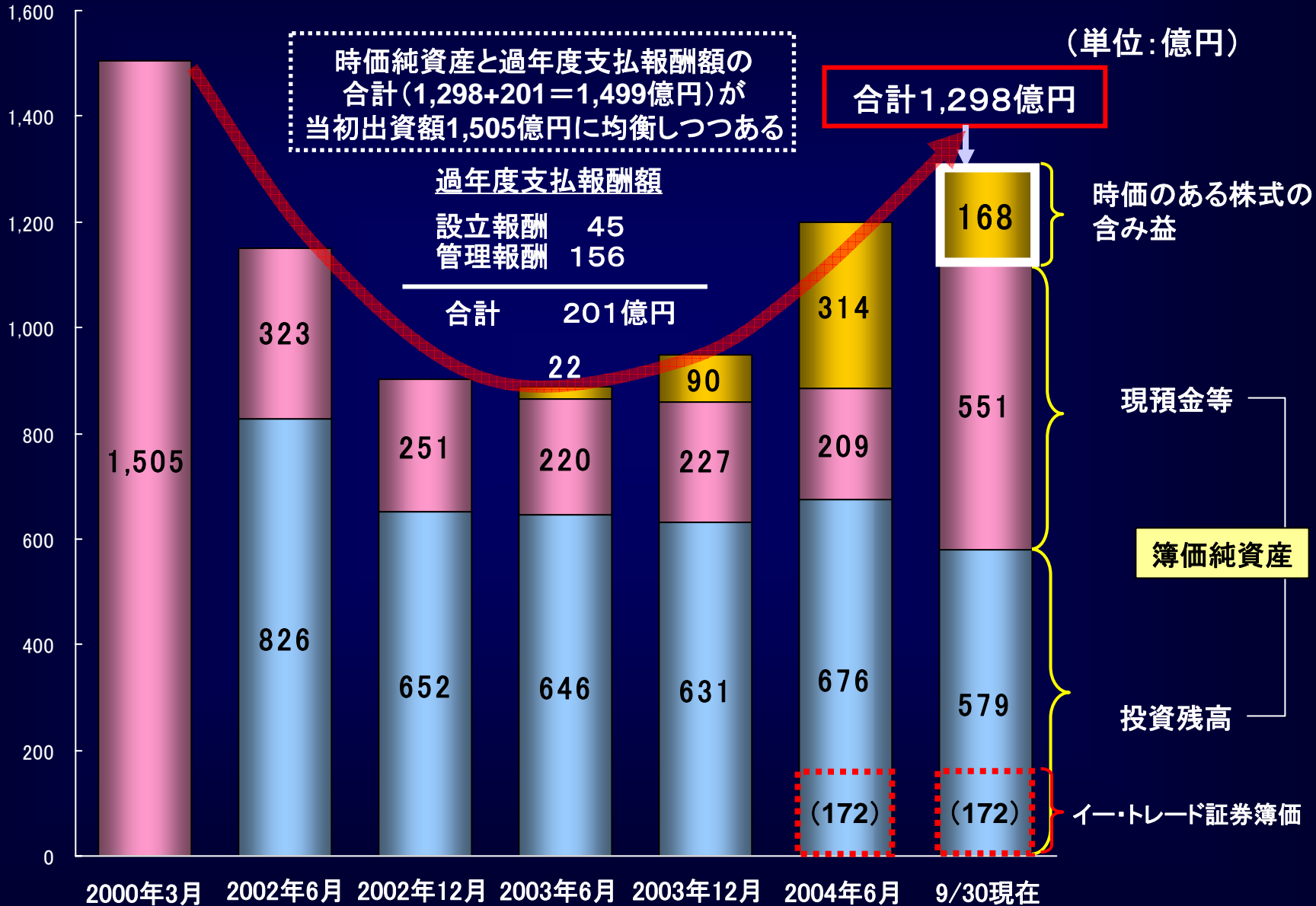
(1) アセットマネジメント事業

当中間期アセットマネジメント事業のハイライト

- ① ITファンドの本格的な収穫期が到来
時価のある株式の含み益が急拡大する一方、タイムリーな市場売却を通じて、キャピタルゲインを確保。
 - ・ ITファンドにおける当中間期の株式売却益は約264億円
- ② 投資先の新規公開・M&Aが順調に推移
当初想定した20社(2004年1月～12月)は達成確実な状況
 - ・ 10月26日現在 新規公開・M&A実績 16社、上場承認は以下の2社
 - ・ 2004年11月15日上場予定 エルピーダメモリ(株)
 - ・ 2004年11月25日 // (株)かわでん
- ③ エクイティからシニアデットまでの一気通貫体制確立のためにメザニン投資及びDIPファイナンスに特化したSBIキャピタルソリューションズ(株)を2004年8月4日に設立し、「SBIメザニンファンド1号」を31億円で設立

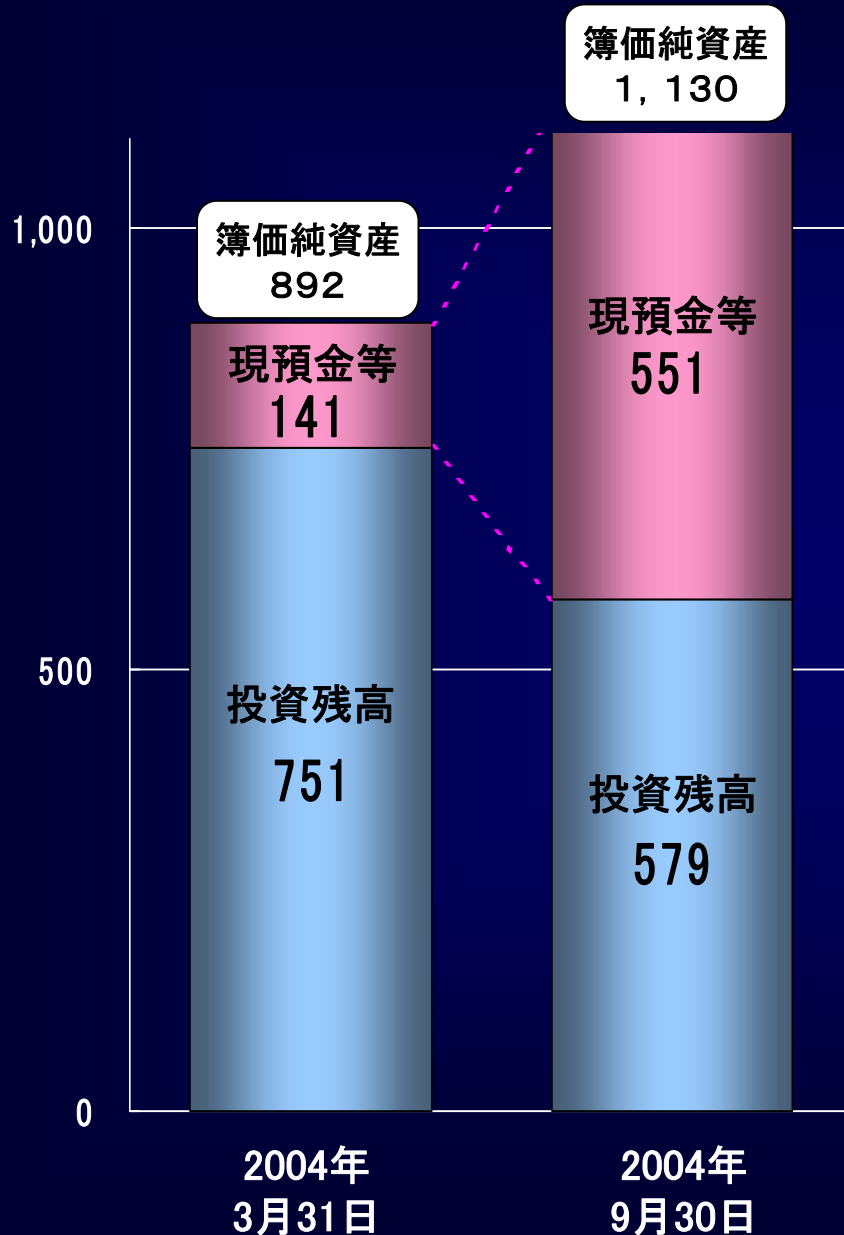
ITファンドの収穫期到来

簿価純資産 + 時価のある株式の含み益



9月30日現在のITファンド簿価純資産推移

(単位:億円)



当中間期の主な増減明細

現預金等: 410億円の増加

増減要因

- ・ 投資実行 ▲43億円
- ・ 株式売却等 199億円
- ・ 株式売却益等 264億円
- ・ 管理報酬等 ▲10億円

投資残高: 172億円の減少

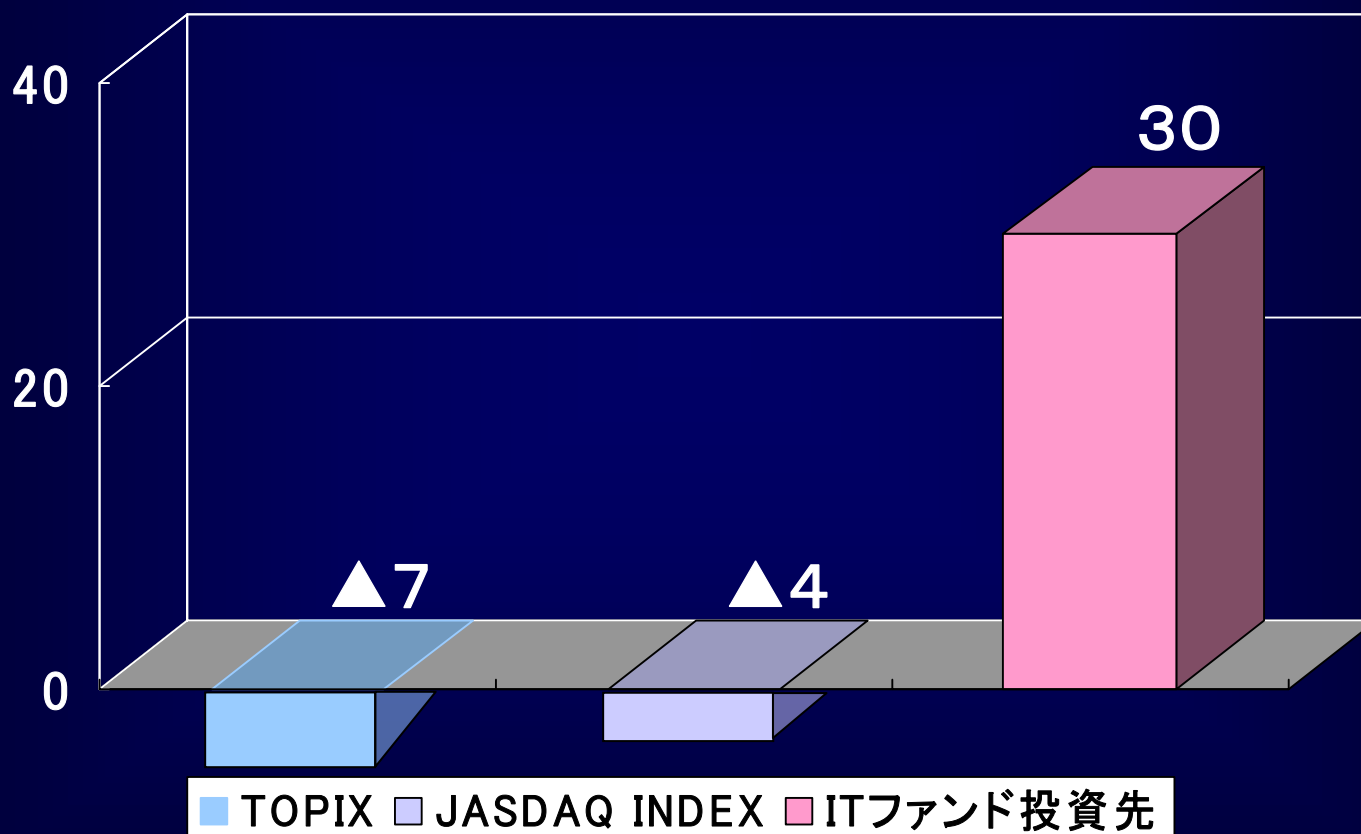
増減要因

- ・ 投資実行 43億円
- ・ 株式売却等 ▲199億円
- ・ 株式評価損等 ▲31億円
- ・ 投資損失引当金戻入 15億円

ITファンド から上場した投資先企業の 株価上昇率

(2004年3月末比2004年9月30日終値上昇率)

(単位: %)



※ 当ファンドによる各社への投資簿価残高(2004年9月30日時点)で各騰落率を加重平均しております。当該期間中に上場した企業については、公募価格からの騰落率にて算出しております。

新規公開又はM&AによるExit社数

	~2003年12月	2004年1月~12月
社数	57社 (内、海外38社)	20社 (内、16社公開済み)

2004年1月以降、以下16社がIPO又はM&Aを行っております

- 2004年 2月 2日 ワールド日栄フロンティア証券(株)
- 2004年 2月27日 ネクス(株)
- 2004年 3月 3日 (株)アイディーユー
- 2004年 3月26日 ベンチャー・リウ・アイタライズ証券投資法人
- 2004年 4月15日 (株)ウェブ・ポート(M&A)
- 2004年 5月27日 ディップ(株)
- 2004年 6月 4日 (株)フレームワークス
- 2004年 6月18日 (株)ランシステム
- 2004年 7月 1日 (株)アマナ
- 2004年 7月 8日 (株)ネットプライス
- 2004年 7月15日 (株)船井財産コンサルタンツ
- 2004年 7月29日 (株)そーせい
- 2004年 9月16日 ニッシン債権回収(株)
- 2004年10月 1日 (株)フレックス・ファーム(M&A)
- 2004年10月 5日 ベリトランス(株)
- 2004年10月19日 ティーケー・インターナショナル(株)(M&A)

また、以下の会社が上場承認済みであります

- 2004年11月15日上場予定 エルピーダメモリ(株)
- 2004年11月25日 " (株)かわでん

・ IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。

・ IPO済みおよびM&Aの社数はすでに売却済みのものを含まず。

2004年に新規公開した投資先の株価上昇率

投資先企業名	公開時期	公募価格 (A)	初値 (B)	上昇率(%) (B/A)	直近株価	上昇率(%) (C/A)
					2004年10月25日 終値(C)	
ネクサス(株) ※1	2月	173,333	233,333	134.6	598,000	345.0
(株)アイディーユー ※1	3月	40,000	82,000	205.0	171,000	427.5
ベンチャー・リヴァイタライズ 証券投資法人	3月	9,850	10,250	104.1	8,080	82.0
ディップ(株) ※1	5月	200,000	400,000	200.0	230,000	115.0
(株)フレームワークス ※1	6月	62,500	175,000	280.0	148,000	236.8
(株)ランシステム ※1	6月	216,667	600,000	276.9	407,000	187.8
(株)アマナ ※1	7月	2,300	6,260	272.2	2,600	113.0
(株)ネットプライス ※1	7月	283,333	1,536,667	542.4	660,000	232.9
(株)船井財産コンサルタンツ	7月	1,860,000	3,760,000	202.2	3,140,000	168.8
(株)そーせい	7月	800,000	800,000	100.0	453,000	56.6
(株)ニッシン債権回収	9月	900,000	1,840,000	204.4	1,300,000	144.4
ベリトランス(株)	10月	600,000	1,350,000	225.0	1,200,000	200.0

※1 株式分割考慮後の数値であります。

※2 このほかM&A等によりワールド日栄フロンティア証券(株)、
(株)ウェブ・ポート、(株)フレックス・ファーム、ティーケーインターナショナル(株)の4社が公開株となっております。

平均上昇率: 228.89%

平均上昇率: 192.50%

2004年に新規公開した投資先銘柄のパフォーマンス

投資先企業名	公開月	公募価格対ファンド 簿価比	初値対ファンド 簿価比
ネクサス(株)	2月	1.9倍	2.5倍
(株)アイディーユー	3月	2.7倍	5.5倍
ディップ(株)	5月	499.9倍	999.8倍
(株)フレームワークス	6月	1.3倍	3.5倍
(株)ランシステム	6月	0.7倍	1.8倍
(株)アマナ	7月	3.8倍	10.4倍
(株)ネットプライス	7月	13.6倍	73.8倍
(株)船井財産コンサルタント	7月	3.7倍	7.5倍
(株)そーせい	7月	16.0倍	16.0倍
ニッシン債権回収(株)	9月	3.6倍	7.36倍
ベリトランス(株)	10月	4.8倍	10.9倍

当中間期の投資実績(全ファンド)①

バイオ関連や公開可能性のかなり高い
レイターステージ企業を中心に投資

2004年4月～2004年9月

	国内	海外	合計
投資社数(社)	13 (5)	4 (1)	17 (6)
投資金額(億円)	79 (28)	16 (1)	95 (29)

- ()内は、前年同期間(2003年4月～2003年9月)の投資社数及び投資金額であります。
- 合計投資件数のうち、新規投資は13社40億円(4社9億円)、既存投資先への追加投資は4社55億円(2社20億円)であります。
- 海外につきましては投資実行時の為替レートで円換算しております。

当四半期の投資実績(全ファンド)②

2004年7月～2004年9月

	国内	海外	合計
投資社数(社)	9 (2)	2 (1)	11 (3)
投資金額(億円)	25 (25)	5 (1)	30 (26)

- ()内は、前年同期間(2003年7月～2003年9月)の投資社数及び投資金額であります。
- 合計投資件数のうち、新規投資は8社22億円(2社7億円)、既存投資先への追加投資は3社8億円(1社19億円)であります。
- 海外につきましては投資実行時の為替レートで円換算しております。

企業再生分野における新ファンドの設立

LBO・MBO・企業再生の資金調達に対応すべく、シニアデットからエクイティまでのあらゆる投資手法をとる事ができる



【バイアウト及び企業再生ファンドの運用】

(100%出資)



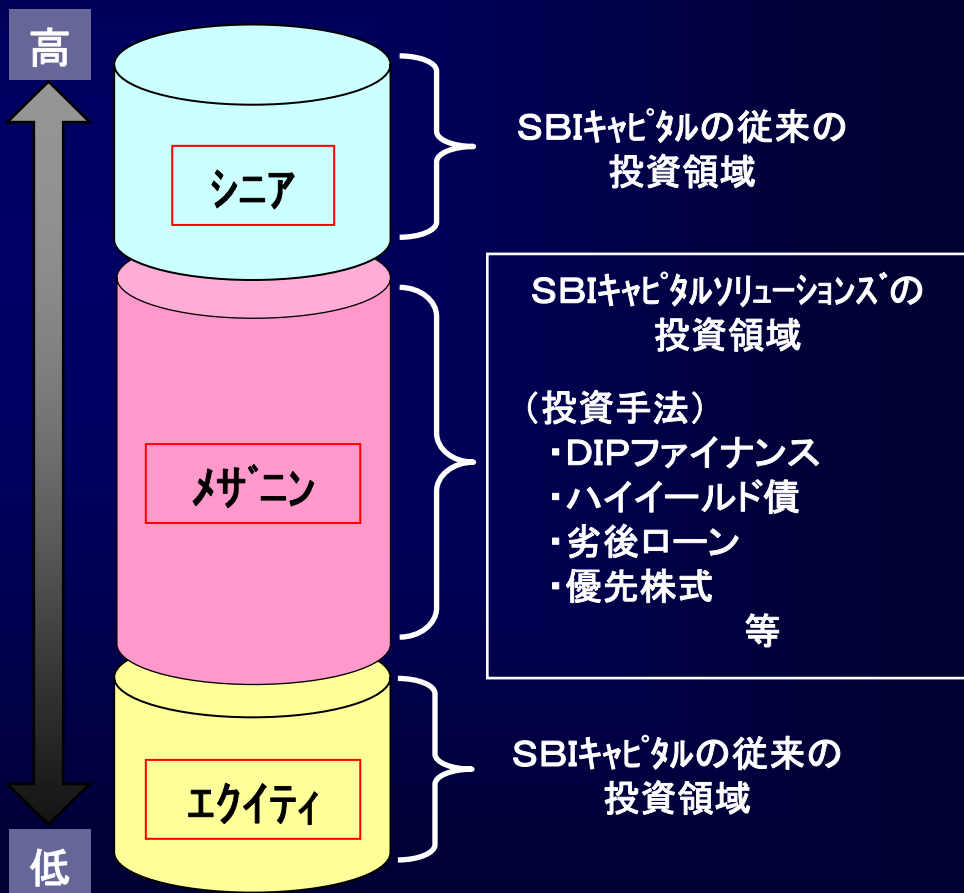
【メザニンファンドの運用】

代表取締役COO 木下 玲子
(元東京スター銀行DIPファイナンス統括責任者)

SBIメザニンファンド1号

メザニン投資及びDIPファイナンスに特化した31億円のパイロットファンドを2004年8月23日に設立。

＜投資対象資産の安全性による分類＞



新ファンドにおけるDIPファイナンスについて

SBIメザニンファンド1号の投資実績(全てDIPファイナンスによる)

会社名	契約締結時期	状況
洩紙	2004年／8月	民事再生中
A工業(印刷業)	2004年／9月	正常先
B社(金属加工業)	2004年／10月	民事再生中
C社(金属加工業)	2004年／10月	民事再生中

2004年8月10日付
日本経済新聞記事

2004年8月23日のファンド設立以来、2ヶ月間で4件のディールをクローズ

第1号案件となった洩紙のケースでは、DIPファイナンスの契約締結までを6日間で行うなど、短期間で十分なデューデリジェンスと柔軟な交渉を実現。

(2) 証券関連事業

当中間期証券関連事業のハイライト

- ① イー・トレード証券の口座数増加ペースが急上昇、
収益基盤の強化に一層の拍車

- ② ワールド日栄フロンティア証券の収益拡大
 - ・ グループシナジー効果の発揮による引受業務の急拡大、財務基盤の安定に伴う金融収支の改善、グループ証券会社間でのネットワークシステムの共有化が進展。

- ③ 新たな証券会社の買収
 - ・ 西日本を地盤とするエース証券、韓国のE*TRADE KOREAを傘下に。

証券子会社 個別業績

2004年4月～2004年9月

(単位:百万円)

	合 計	イー・トレード	ワールド日栄 フロンティア	フィデス	E*TRADE KOREA	(参考) エース
営業収益	19,244	12,143	5,871	156	1,074	4,252
経常利益	6,660	4,650	1,901	5	104	691
当期純利益	4,665	2,446	2,110	4	105	956

※ 合計は各社間の取引等を控除しない単純合算となっております。

※ E*TRADE KOREAの数値につきましては、2004年9月30日付為替レート(100Won=9.64円)で換算しております。

SBIの証券ビジネス規模

(平成16年9月30日現在)

	合計	イー・トレード	ワールド日栄 フロンティア	エース	フィデス	E*TRADE KOREA
証券口座数	628,395 口座	452,493 口座	61,865 口座	53,748 口座	710 口座	59,579 口座
信用取引 口座数	47,407 口座	44,010 口座	2,080 口座	1,317 口座	—	—
1日当たり 平均株式 売買代金	1,323 億円	1,209 億円	29 億円	18 億円	—	67 億円

※1日当たり平均株式売買代金は、2004年9月における一ヶ月間の各営業日平均値であります。

※ E*TRADE KOREAの数値につきましては、2004年9月30日付為替レート(100Won=9.64円)で換算しております。

イー・トレード証券 個別業績

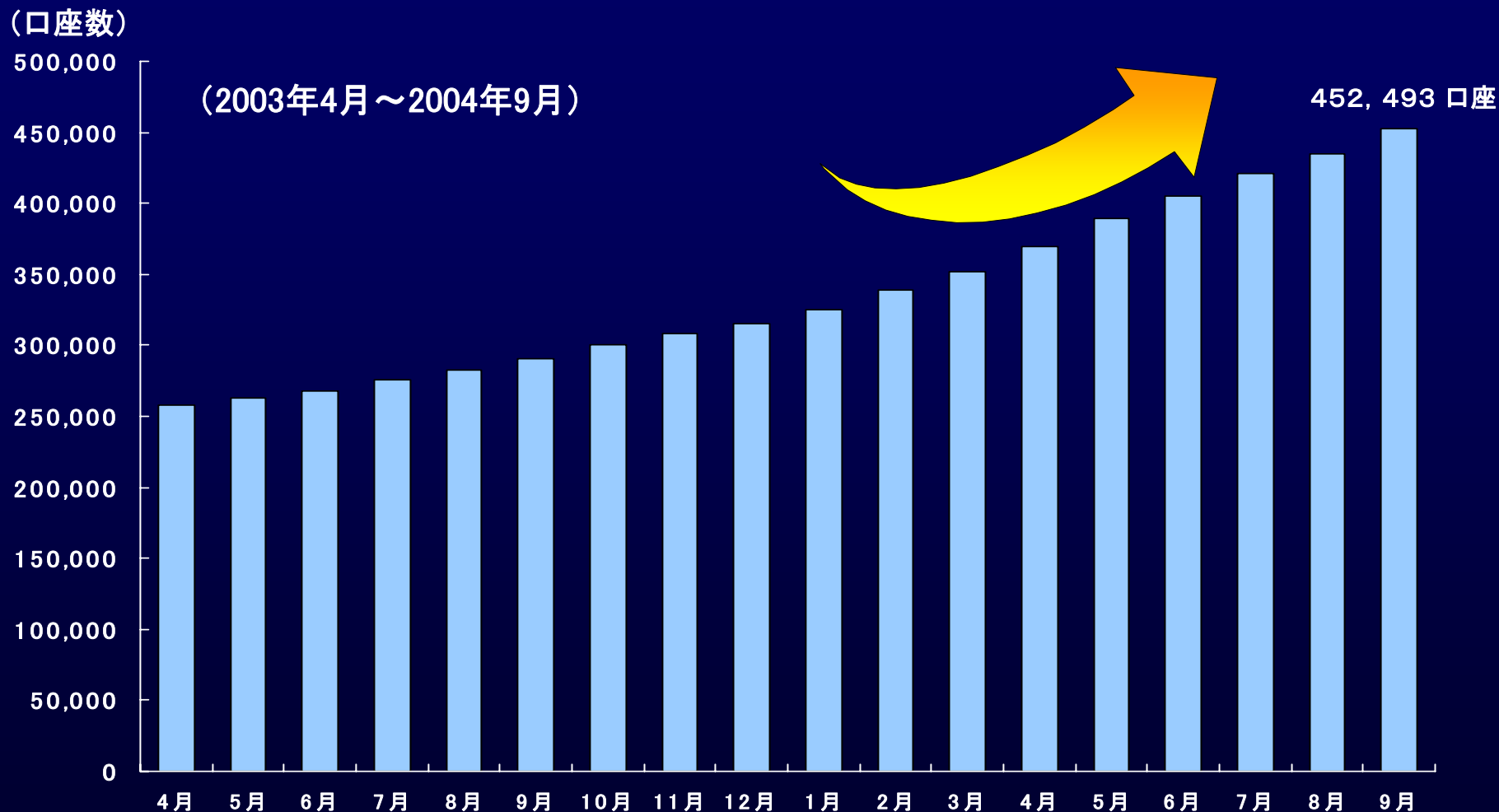
(単位:百万円)

	2004年3月 中間期 (2003年4月～2003年9月)	2005年3月 中間期 (2004年4月～2004年9月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	5,959	12,143	+103.8
営業利益	1,601	4,620	+188.6
経常利益	1,625	4,650	+186.2
当期純利益	750	2,446	+226.1

※ 2003年5月までの業績はSBI連結業績には含まれておりません。

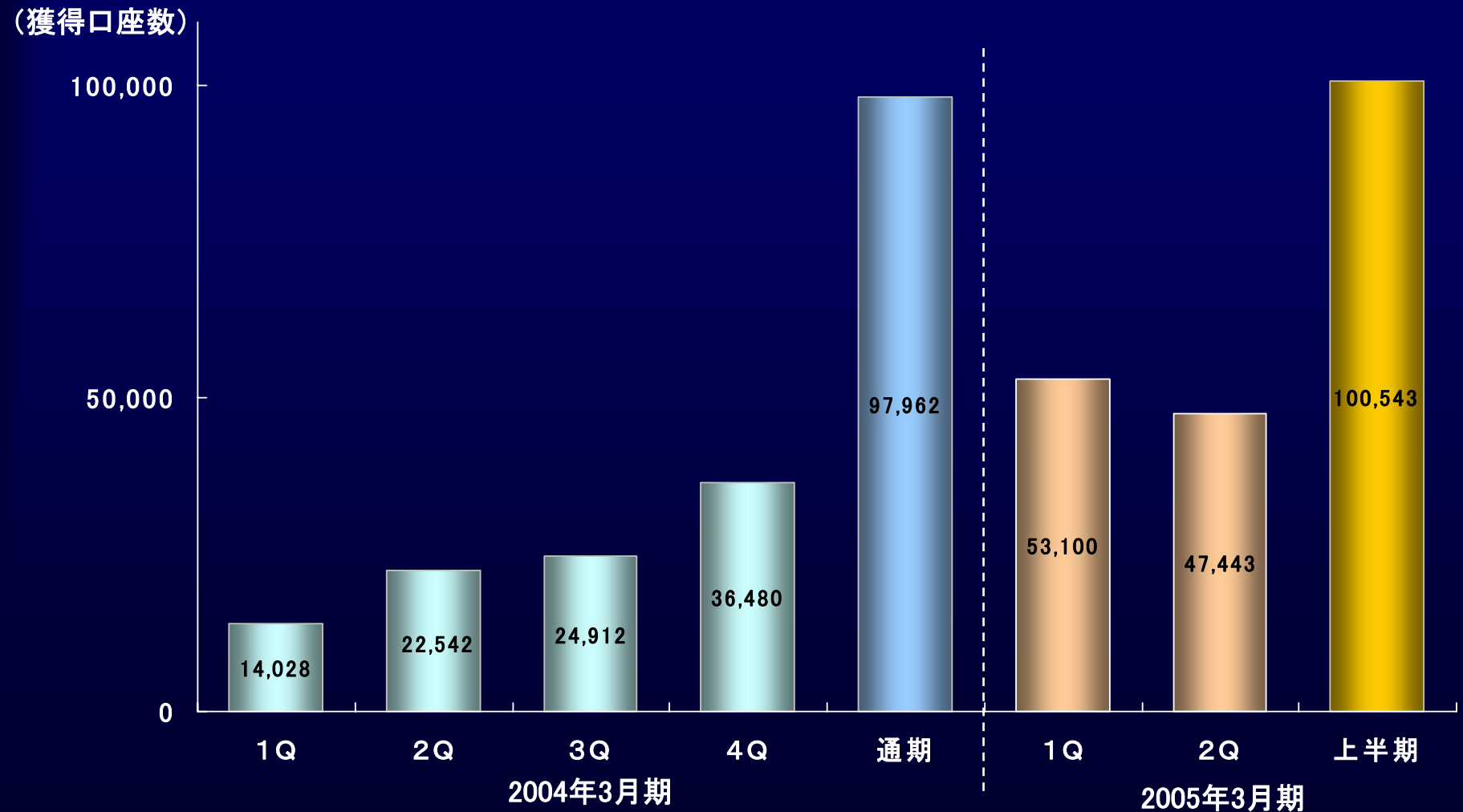
イー・トレード証券の口座数推移

口座数は順調に増加しており、2004年に入ってその増加傾向は更に強まっている。



イー・トレード証券の口座獲得推移

イー・トレード証券は半年間で前年度1年間の純増数を上回り、10万を超える口座を獲得。



ワールド日栄フロンティア証券①

ワールド日栄フロンティア証券個別業績

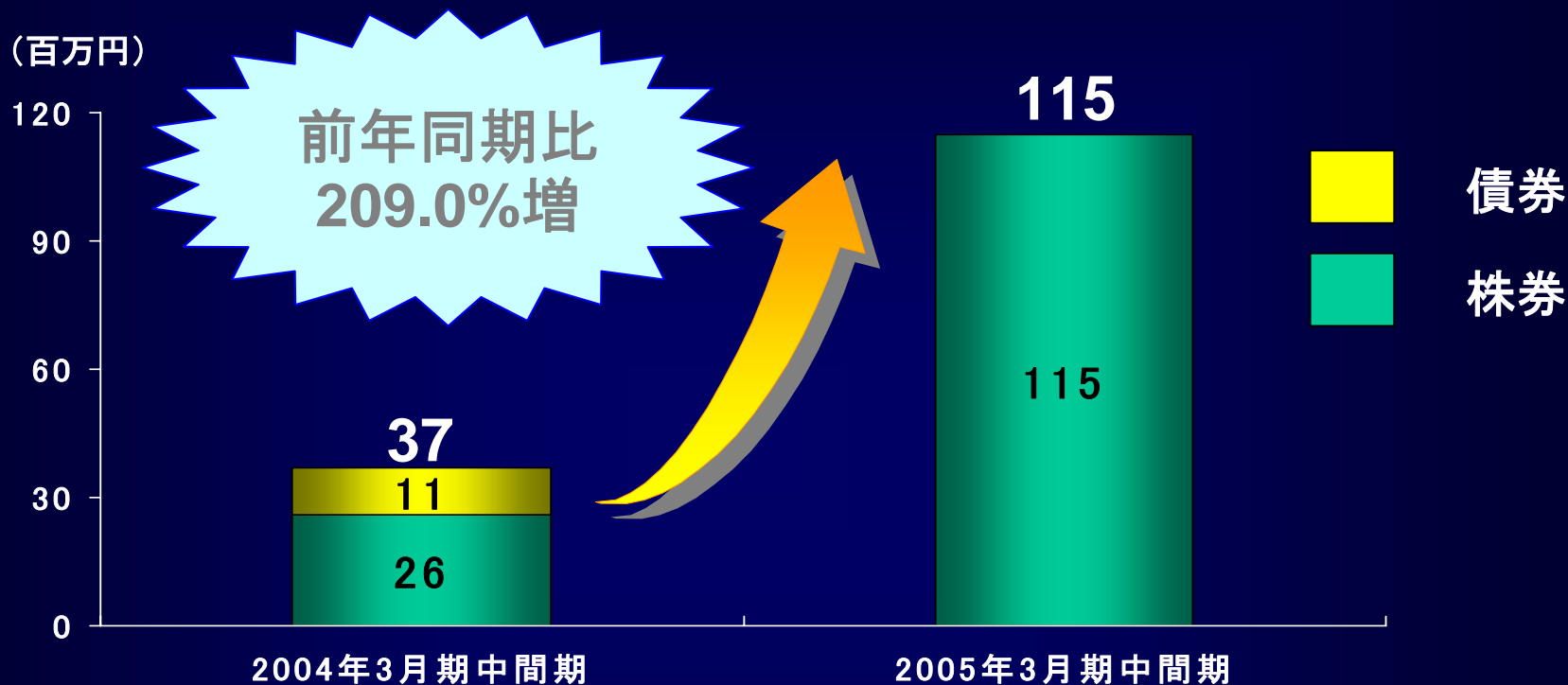
(単位:百万円)

	2004年3月 中間期 (2003年4月～2003年9月)	2005年3月 中間期 (2004年4月～2004年9月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	4,932	5,871	+19.0
営業利益	1,060	1,747	+64.8
経常利益	1,125	1,901	+68.9
当期純利益	1,202	2,110	+75.5

※ 2004年3月期につきましてはワールド日栄証券の業績を記載しております。

ワールド日栄フロンティア証券②

グループシナジー効果による引受・売出し手数料の増加

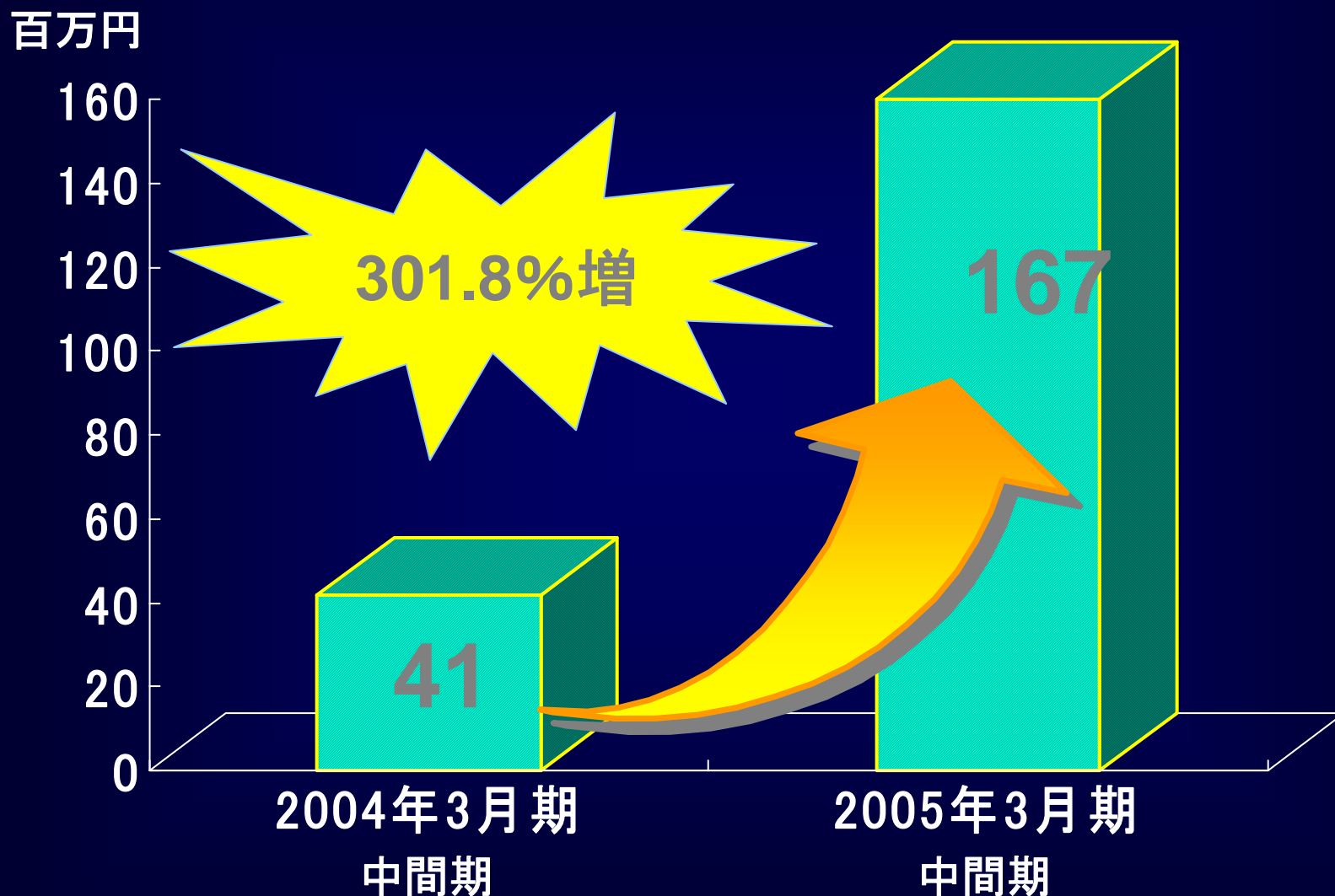


区分	株式 引受件数
IPO	3
公募・売出し	1
合計	4



区分	株式 引受件数	うちSBI投資先
IPO	11	7
公募・売出し	2	1
合計	13	8

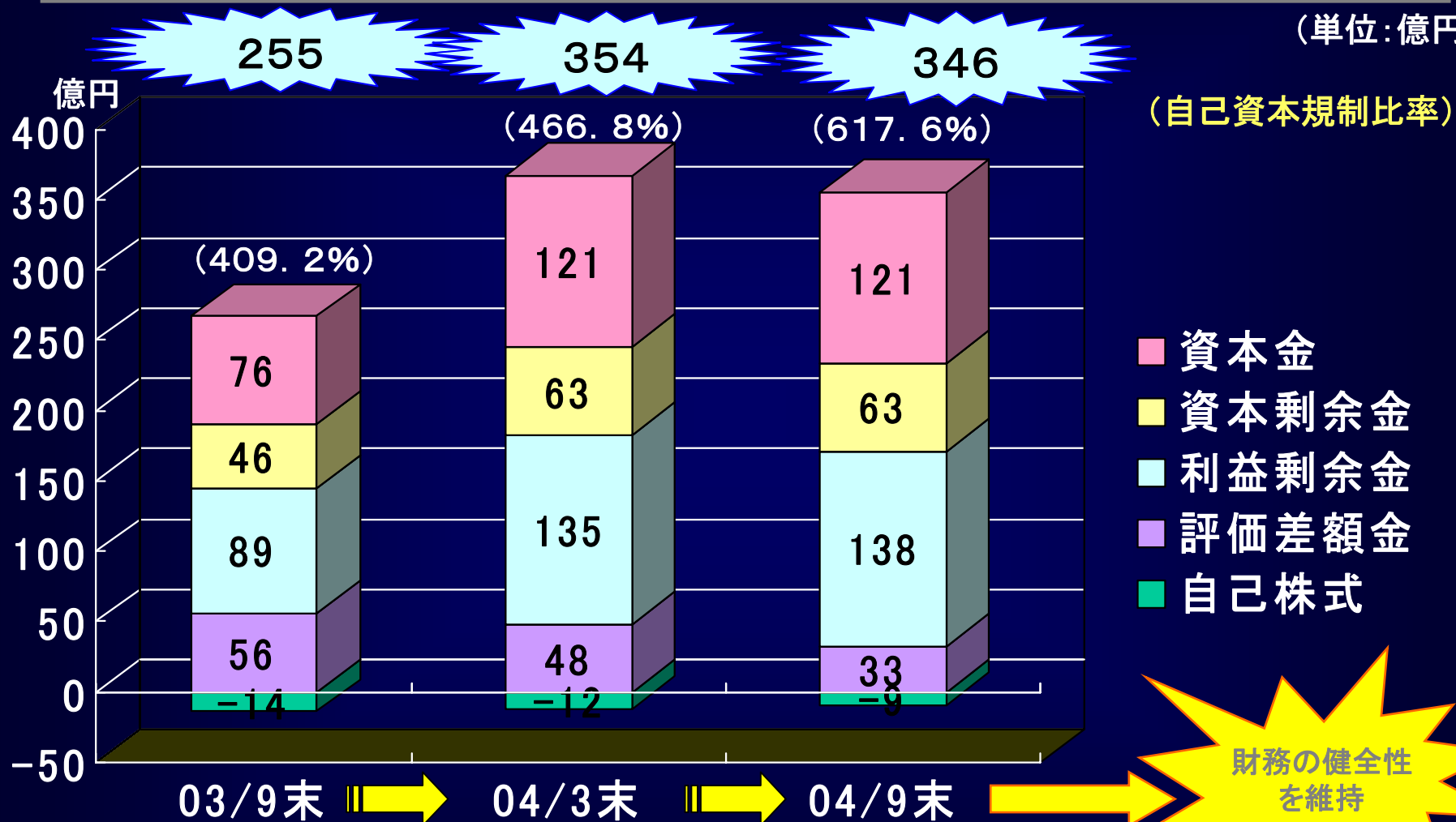
対前年同期比での金融収支の改善



$$\text{金融収支} = \text{金融収益} - \text{金融費用}$$

自己資本規制比率の向上

(単位: 億円)



- 資本金
- 資本剰余金
- 利益剰余金
- 評価差額金
- 自己株式

財務の健全性を維持

利益剰余金増加	+3億円
評価差額金減少	△15億円
自己株式減少	+3億円

計△7億円

エース証券①

エース証券株式取得状況および連結処理

●株式取得状況

エース証券株式1株当り純資産

2004年9月末純資産
(連結ベース)

144億円

発行済株式総数
(除自己株式)

36,885,358株

@391円

エース証券株式公開買付けにおける1株当り価格

@215円

取得株式1株当りの購入価格は、1株当り純資産の**約0.55倍**

●連結処理について

9月末のみなし取得により、10月以降の同社損益がSBI連結損益に加算される。連結開始にあたり、同社開示の49億円の偶発債務に対する損失引当を計上するなどの保守的な処理を実施。当社の取得額と同社連結純資産(持分考慮後)との差額(逆暖簾)約4億円については、当中間期に一括償却を行った。

エース証券個別業績

(単位:百万円)

	2004年3月期 中間期 (2003年4月～2003年9月)	2005年3月期 中間期 (2004年4月～2004年9月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	4,155	4,252	+2.3
営業利益	505	740	+46.5
経常利益	613	691	+12.6
当期純利益	604	956	+58.3

※SBI連結業績への加算は2004年10月以降となります。

(3) ファイナンシャル・サービス事業

当中間期ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

① モーニングスターを子会社化

9月末のみなし取得により、10月以降の同社の損益が連結損益に加算される。連結調整勘定46億円は、20年償却を実施。

モーニングスター第3四半期連結業績
売上高747百万円 経常利益129百万円

② ファイナンス・オールがベリトランス、テックタンク、インターアイを子会社化(同社2004年9月期)

ベリトランスは10月5日に大証ヘラクレス市場に上場

③ ファイナンス・オールが同社通期連結業績で営業利益10億円を達成(グッドローンが通期黒字化を達成)

モーニングスター 連結業績

(単位:百万円)

	2003年12月期 第3四半期 (2003年1月～2003年9月)	2004年12月期 第3四半期 (2004年1月～2004年9月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	685	747	+9.2
営業利益	75	124	+64.9
経常利益	96	129	+34.7
当期純利益	42	80	+89.8

※SBI連結業績への加算は2004年10月以降となります。

ファイナンス・オール 連結業績

(単位:百万円)

	2003年9月期 (2002年10月～2003年9月)	2004年9月期 (2003年10月～2004年9月)	前年同期比 増減率(%)	2005年9月期 通期業績予想
売上高	7,577	10,150	+34.0	12,000
営業利益	297	1,001	+236.6	—
経常利益	241	975	+303.1	1,800
当期純利益	64	637	+885.1	1,200

※ 2004年1月以前の業績はSBI連結業績には含まれておりません。

3. 今後の事業展開について

SBIグループが推進する7つの基本戦略

基本戦略(1)

SBIへの企業価値の集約化

SBIへの企業価値の集約化

2005年3月期下期中に企業価値集約化の仕上げを実行予定

純粋持株会社



イコール・クレジット(株)

ソフトバンク・ファイナンス
直轄の子会社



事業持株会社



東証1部、大証1部上場

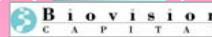


ワールド日栄フロンティア証券



EX Commodity

SBI Asset Management



E*トレード証券

ソフトバンク・ファイナンス
グループ企業価値の総和

ソフトバンク・ファイナンス直下の子会社をソフトバンク・インベストメントの傘下に集約

基本戦略(2)

グループ企業の新規公開を加速化させ、膨張を続ける
SBIの含み資産を飛躍的に高める

—今後の新規公開検討対象先—

- ① イー・コモディティ
- ② ゴメス
- ③ SBIキャピタル
- ④ ゲッドローン
- ⑤ E*TRADE KOREA

現在のSBIグループ主要子会社株式の含み益

(単位:億円)

	2003年 3月31日 含み益	※ 取得価額	2004年 3月31日 含み益	2004年 9月30日 含み益	2004年 10月25日 含み益
ワールド日栄 フロンティア証券	—	134	240	52	47
ファイナンス・ オール	—	45	143	280	314
モーニングスター	—	71	—	▲ 2	▲ 14
ベリトランス (FA子会社)	—	5	—	—	65
合計	0	255	383	330	412

※ 連結上の簿価であります。

今後、イー・トレード証券、イー・コモディティ、ゴメス、SBIキャピタル、グッドローン、E*TRADE KOREAらを加えて、10社以上の公開企業を有する企業集団にする。

① イー・コモディティ株式会社

イー・コモディティの公開準備開始について

イー・コモディティ(株)ー資本金1,434百万円 事業概要:オンライン商品先物取引
(2000年10月13日設立) (業界唯一のネット專業会社)

・公開に向け4.5億円の資本増強を実施

(単位: %)

株主	増資前	※ 増資後
ソフトバンク・インベストメント(株)	85.5	68.2
トリフォ(株)(旧社名:太陽ゼネラル)	14.5	11.6
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド2号	—	20.2

※ 顕在ベースシェア

・公開に向けた受託取引員資格の取得

現在のイー・コモディティ
(取次商品取引員)

EX Commodity

受託取引員

東京工業品取引所

東京穀物商品取引所

中部商品取引所

大阪商品取引所等

2004年10月15日
経済産業省・農林水産省に
受託会員許可取得申請

2004年10月21日付
日刊工業新聞記事

(出所:2004年10月21日日刊工業新聞)

申請認可後のイー・コモディティ

(受託取引員)

EX Commodity

<変更許可申請した商品市場>

東京工業品取引所

(貴金属・石油・ゴム・アルミニウム)

東京穀物商品取引所

(農産物・砂糖)

中部商品取引所

(石油)

商品先物業界規模の推移と委託手数料の現状

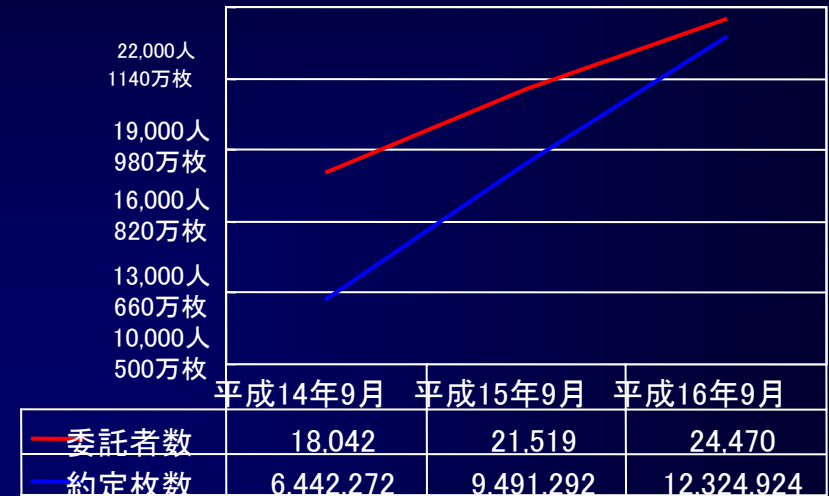
・業界規模

業界全体



(出所 (社)商品取引受託債務補償基金協会)

オンライン取引



(出所 Factual Futures) (約定枚数は単月実績を年換算)

・委託手数料比較

	正規手数料(対面営業)	イーコモ(セルフ/サポート)
ガソリン(東京)	7,600円	1,050円/4,724円
金(東京)	10,400円	
ゴム(東京)	8,000円	
大豆(東京)	6,600円	
トウモロコシ(東京)	6,600円	

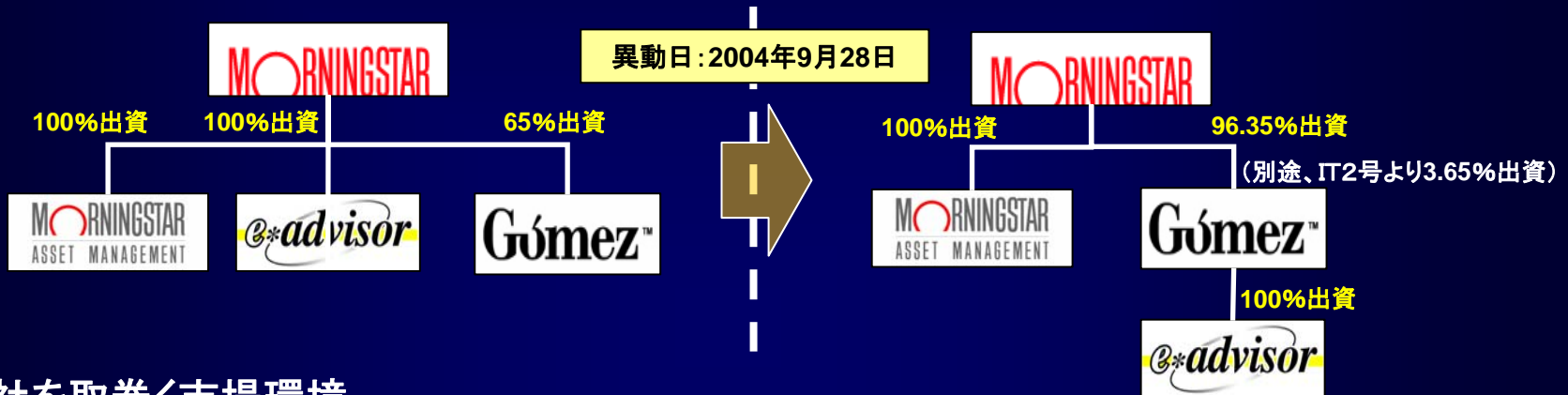
セルフ手数料は正規手数料の12%程度
自由化後に対面顧客を獲り込む余地は十分ある

② ゴメス株式会社

ゴメスの公開準備開始について

ゴメス(株)ー資本金300百万円 事業概要:ウェブサイトの評価、アドバイスサービス
(2001年3月22日設立)

・ゴメス社の公開を視野に入れたモーニングスターグループ内での資本移動



・ゴメス社を取巻く市場環境

インターネット世帯普及率が初めて50%を超え、ECサイトのユーザビリティ向上への欲求がさらに高まりつつある。

現在のゴメス

Gómez™

Eコマースに関する
コンサルティング企業

将来のサービス展開

- ・コンテンツビジネス
- ・リサーチサービス
- ・エデュケーションサービス
- ・サポートサービス

インターネットに関する総合
サポート企業への転進

IPO

ゴメスの業績推移

(百万円)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度 第3四半期 (2004年1月～9月)
売上高	70	133	162	162
経常利益	32	28	53	61
当期利益	18	15	31	36

上記各数値は監査法人による監査を受けておりません。

③ SBIキャピタル株式会社

再生経緯

2000年9月	民事再生法の適用を申請
2001年8月	SBI・LBO・ファンド1号(業務執行組合員:SBIキャピタル)より投資を実行
2002年7月	全債務の弁済が終了し、民事再生手続終結
2004年6月	3期連続黒字を計上し、再上場を視野に入れる
2004年10月	JASDAQ市場への上場承認(上場予定日:11月25日)

再生支援内容



リスクキャピタルの提供
及びリファイナンスのサポート
役員派遣及び
経営ノウハウの提供
新しいガバナンス体制の構築

(株)かわでん

民事再生法適用会社で
初の「再」上場

2004年10月20日
日本経済新聞記事

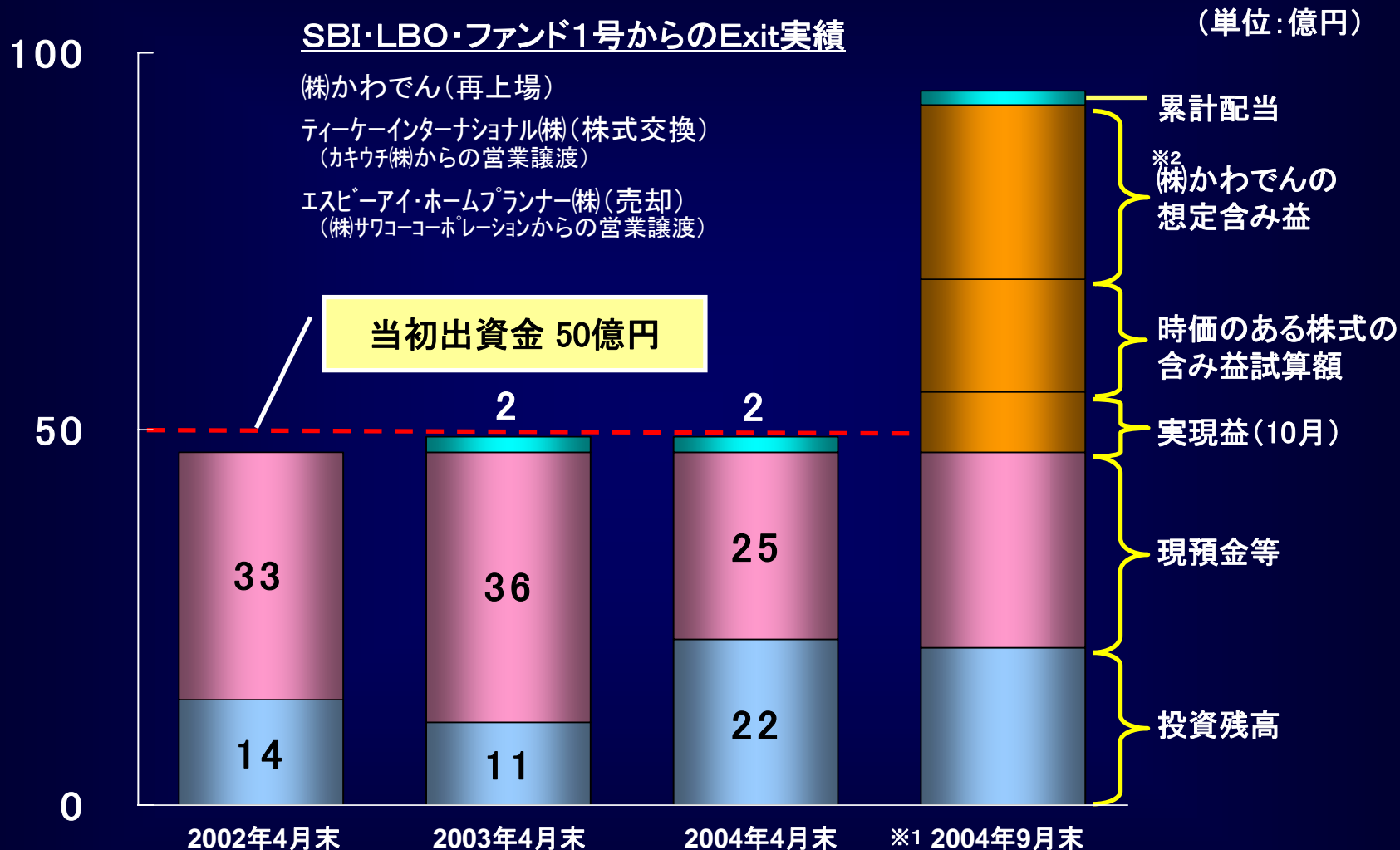
(出所:2004年10月20日
日本経済新聞1面)

SBI・LBO・ファンド1号主導のもと利益優先主義の徹底や販管費削減による原価低減で直近3期連続黒字化を達成。その間、倒産下において多くのバイアウト系ファンドで行われる人員削減は行わなかった。

直近の再建上場・再上場企業

社名	破綻時期	支援企業	上場時期と市場	適用法令	再上場までの所用期間
(株)SHOEI	1992年5月	三菱商事(株)	2004年7月6日/JASDAQ	会社更生法	12年2ヶ月
マックスバリュ東海(株)	1997年9月	イオン(株)	2004年7月30日/東証2部	会社更生法	6年10ヶ月
(株)かわでん	2000年9月	SBIキャピタル(株)	2004年11月25日/JASDAQ (予定)	民事再生法	4年2ヶ月

SBI・LBO・ファンド1号の収穫期到来



※1 想定数値を含んでおりますので、数値の記載は省略しております。

※2 (株)かわでんの想定含み益は、有価証券届出書記載の想定発行価格228,000円にて算出しております。

良好なファンドのトラックレコードをベースに株式公開の検討を開始

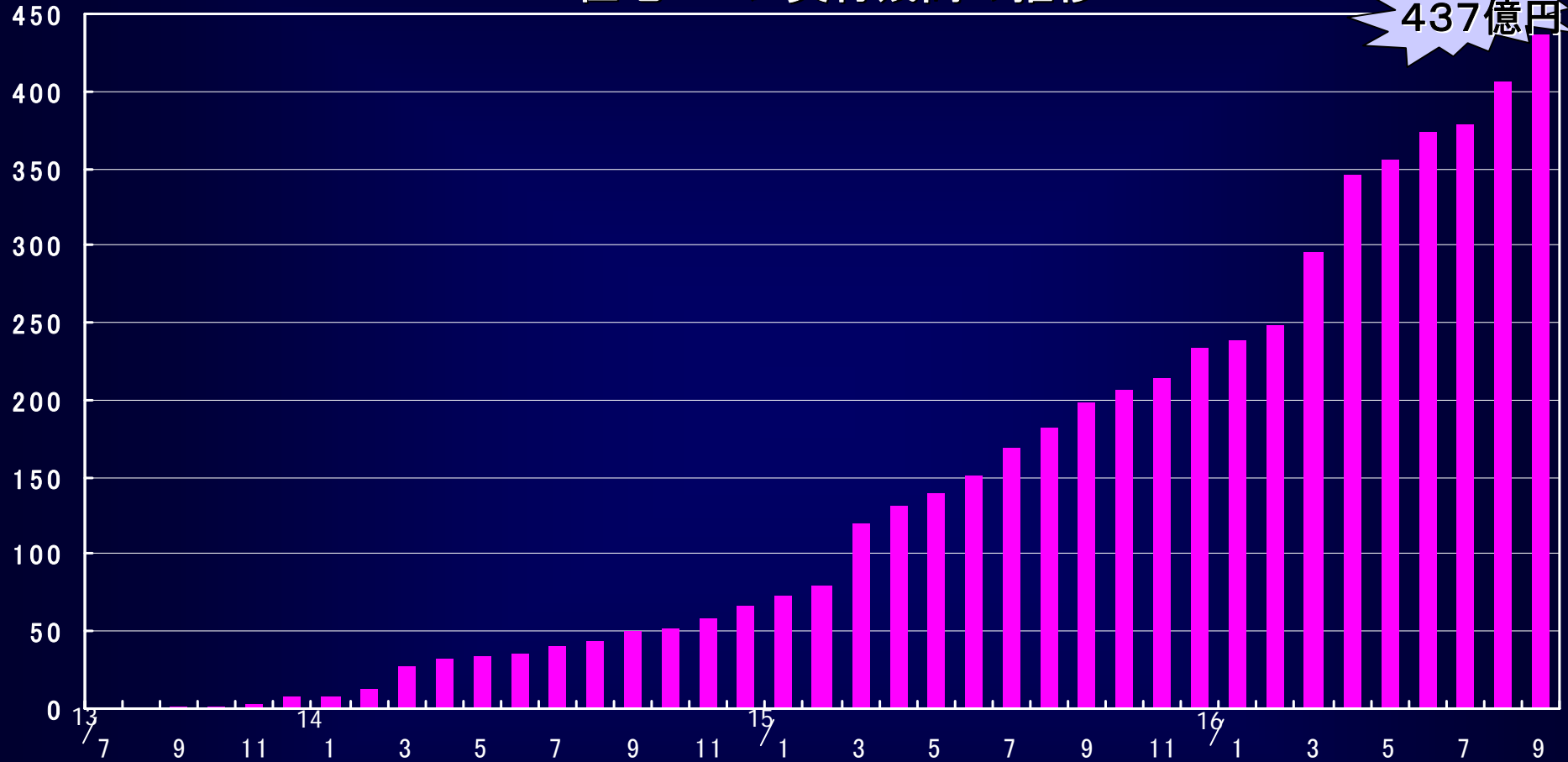
④ ゲッドローン

グッドローンの実績

(億円)

住宅ローン実行残高の推移

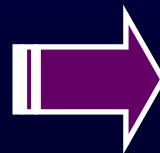
437億円



直近1年間において業績の通期黒字化を達成

・平成14年10月～平成15年9月

売上高 329百万円
経常利益 ▲159百万円
当期利益 ▲162百万円



・平成15年10月～平成16年9月

売上高 960百万円
経常利益 204百万円
当期利益 203百万円

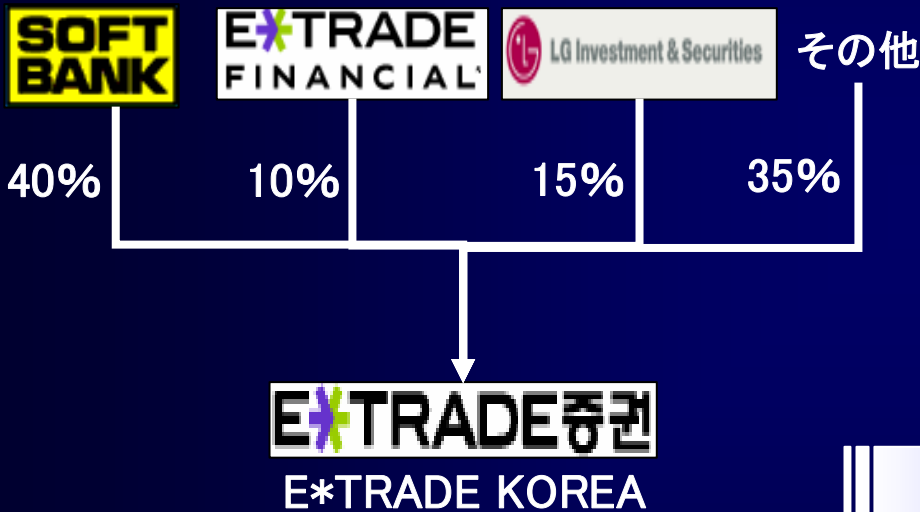
⑤ E * TRADE KOREA

E*TRADE KOREAの買収(2004年6月)

早期の増資と引受業務免許取得により同社をオンライン証券から総合証券会社へと成長させ、速やかな株式公開を目指す

<買収前>

<買収後>



2004年9月に25億円の増資を実施

総合証券会社化

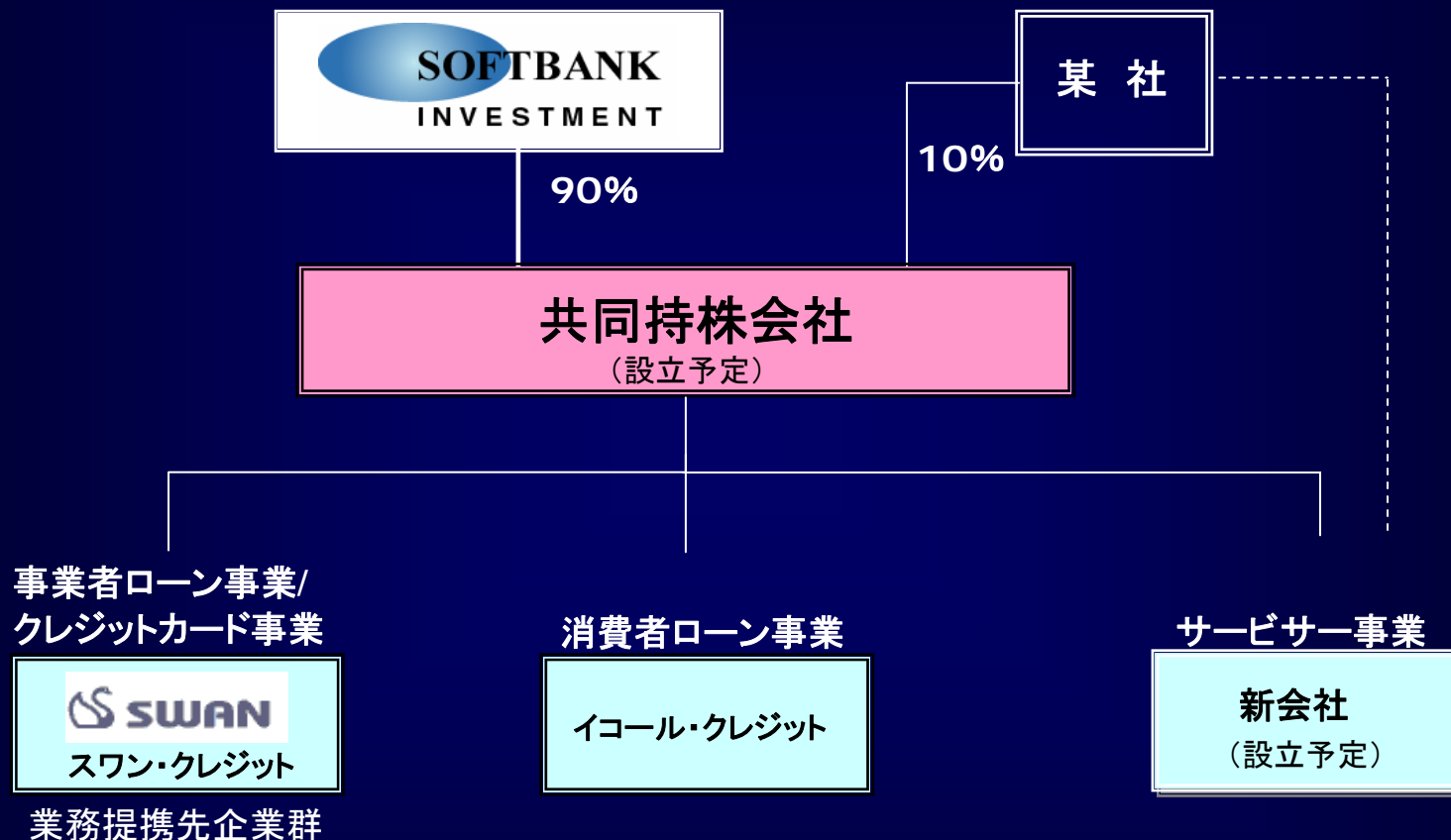
IPOへ!

基本戦略(3)

金融分野での新サービス展開

SBIグループにおける消費者・事業者向け新事業構想

ネット上で完結できるサービスの提供



【事業者ローン】

クレディア
ニッシン
光通信
ネクサス
マイクロビジネスライフサポート
エフ・アンド・エム

【クレジットカード】

アプラス
全国貸付管理ビジネス協会

基本戦略(4)

非金融分野への積極的投資を展開

ファイナンシャル・マーケットプレイス事業の非金融分野への展開

【基本コンセプト】 金融を核に金融を超える



主要ポータルサイトを中心とした100以上のネットマーケティングチャネル

<総合イー・マーケットプレイス>



ファイナンシャル・マーケットプレイス事業の非金融分野への展開過程

i)平成16年6月に株式会社インターアイを買収、生活関連情報サイト5サイトを追加

ii)その他、金融・非金融サイトを自社で6サイト立ち上げ

3Q

4Q

平成16年10月以降



老舗引越一括見積りサイト



プレミアムチケットの流通サイト



レンタルサーバー一括見積りサイト



ピアノ買取一括見積りサイト



格安航空券一括見積りサイト



キャッシング専用比較サイト



ブロードバンド比較サイト



リフォーム比較サイト



ビジネスローン専用比較サイト



厳選引越一括見積りサイト



クレジットカード専用比較サイト

株式会社インターアイを完全子会社化することにより、5サイトが追加

基本戦略(5)

IT分野での新たなる旗艦ファンド創設と
バイオファンドの本格的始動

ITファンドの分配および期限延長

旗艦ファンドであるソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンドは2005年6月30日に運用期日を迎えるが、2年間の運用期間の延長を目指す。

2005年についても15社程度のIPOもしくはM&AによるExit社数が見込まれ、更なるファンド資産の増大が十分期待できる状況である。また、満期時に第1回目の分配を実施する予定。

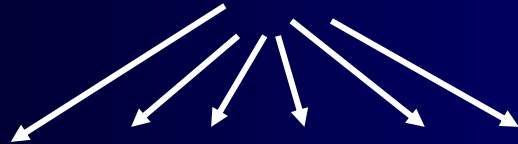
分配見込み金額：300億円～500億円

ブロードバンド・ファンドの特色について

一般的なVCファンド



機関投資家および事業法人



ベンチャーキャピタルファンド

最低投資金額が1億円を超えるケースが多く、投資家の属性が限定される



未公開企業への投資果実を得られる主体が限られる

SBIグループ

SBIブロードバンドキャピタル2号
投資事業匿名組合



個人投資家



ベンチャーキャピタルファンド

投資金額の小口化(1口100万円)と個人投資家の個人情報保護(匿名性)を実現



多くの個人投資家に未公開株への投資機会を与える

ブロードバンド・ファンドの募集について



個人投資家より
200億円の資金調達予定

事業法人または金融法人より
300億円の資金調達予定

(営業者)

SBIブロードバンドキャピタル
株式会社(完全子会社)

SBIブロードバンドキャピタル
投資事業匿名組合

SBIブロードバンドキャピタル2号
投資事業匿名組合

(無限責任組合員)

SBIベンチャーズ株式会社
(完全子会社)

SBIブロードバンドファンド1号
投資事業有限責任組合

※SBIブロードバンドファンド2号
投資事業有限責任組合

国内
欧州

米国

※該当ファンドは設立準備中であります。

(販売証券会社)

E*トレード証券

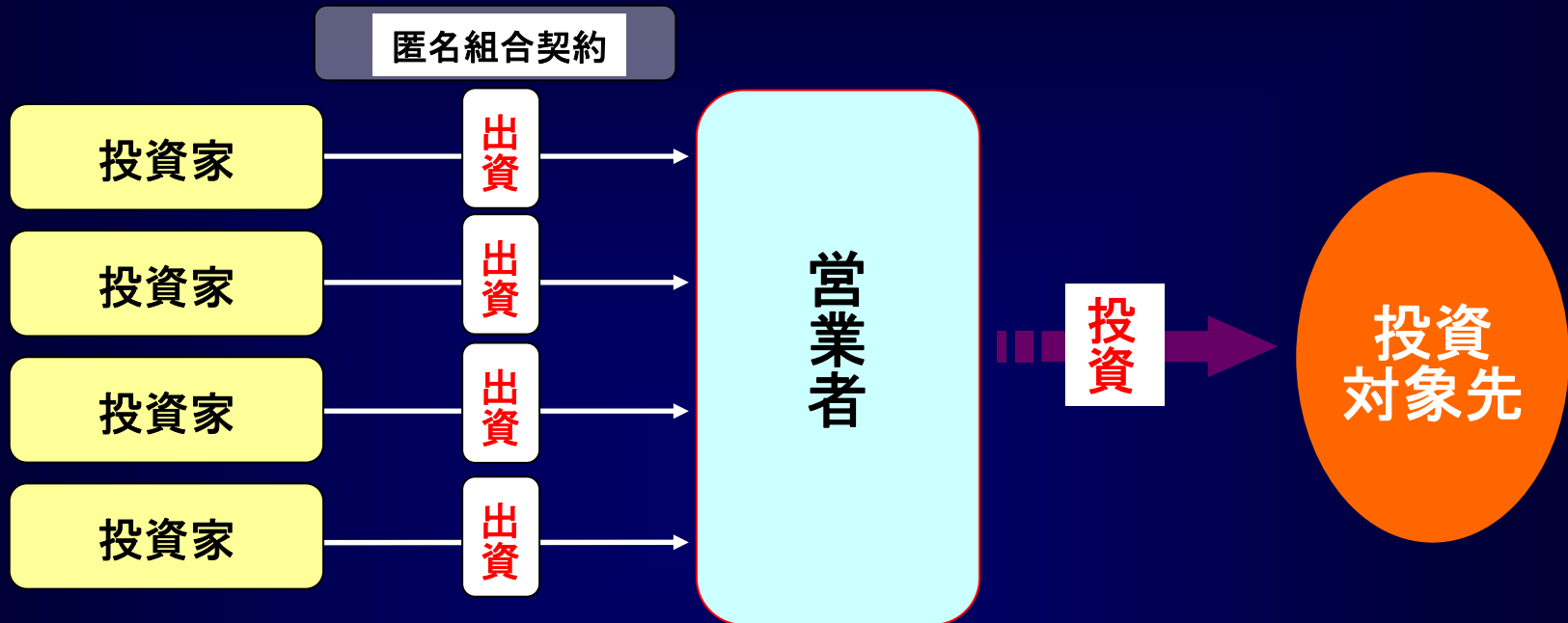


ワールド日栄フロンティア証券



エース証券

匿名組合について



- 匿名組合とは、匿名組合員が営業者に出資をし、その営業の一切を営業者に委ね、組合員はその利益配当を受け取る契約です。
- 匿名組合契約は、匿名組合員と営業者の相対契約です。
従って、匿名組合契約が複数併存しても、匿名組合員間には法律関係は生じません。
- 匿名組合員が出資した財産の所有権は営業者に帰属し、匿名組合員は、利益配当請求権及び出資金返還請求権を有します。また営業者のみが営業の運営に当たり、匿名組合員には自ら業務を執行する権限はありません。
- 本匿名組合では、匿名組合員が出資額を超えて損失を負担することはありません。

バイオビジョン・ライフサイエンス・ファンド1号の状況



業務執行組合員
バイオビジョン・キャピタル(株)
当初出資金:34億円

2003年12月24日の設立以来、約10ヶ月間に創薬系の
バイオベンチャー企業9社に対して15億円の投資を実行

主な投資先

投資先名	事業概要
ワイスセラピューテックス(株)	がん抗体医薬の開発
Acologix,Inc.(米国籍)	骨及び腎疾患の治療薬開発
MediciNova,Inc.(米国籍)	新薬候補化合物を導入し欧米を中心に開発を行う
Acucela,Inc.(米国籍)	網膜を含む視神経の疾患に特化した創薬ベンチャー

上記のほか5社の創薬系バイオベンチャー企業に投資をしております。

バイオファンド投資先の新聞記事

バイオ関連のおもな投資先の新聞掲載記事

2004年10月2日付
日本経済新聞記事

投資先MediciNova社の掲載記事

(出所:2004年10月2日付日本経済新聞)

2004年9月11日付
日本経済新聞記事

投資先Acologix社の掲載記事

(出所:2004年9月11日付日本経済新聞)

基本戦略(6)

中国における本格的な投資の開始

対中国投資拡大の本格化

2004年6月1日付で中国関連事業室を開設し、
対中国投資への情報収集を開始

香港・中国株の取次ぎ

中国企業の日本市場でのIPO支援

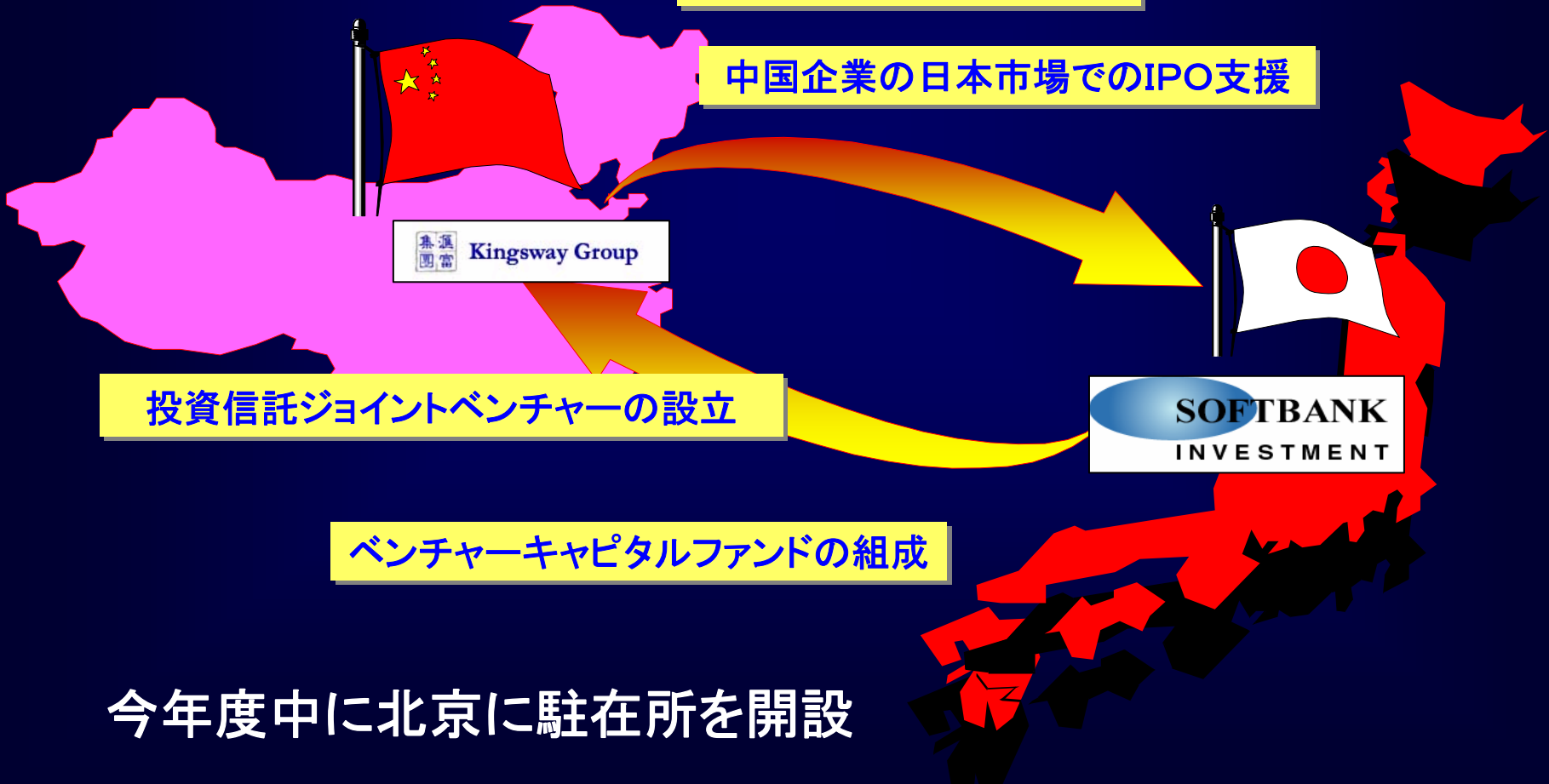
集團 運富 Kingsway Group

投資信託ジョイントベンチャーの設立

SOFTBANK
INVESTMENT

ベンチャーキャピタルファンドの組成

今年度中に北京に駐在所を開設



基本戦略(7)

証券3社のシステムコスト・バックオフィスコストの
大幅な引き下げ

証券3社のシステム共有化による価格交渉力の確保

E*トレード証券

WORLD NICHIEI
FRONTIER
Securities Co., Ltd.
WNF

エース証券

<共通インフラシステム>

- ◇ ネットワーク集中管理機能
- ◇ 情報系システム共有機能
- ◇ 社内ポータルサイト機能
- ◇ ファイアーウォール機能

セキュリティ強化

業務の効率化

コスト削減

システムの安定化

交渉力

外部ベンダーA社

外部ベンダーB社

外部ベンダーC社

ワールド日栄フロンティア証券＝イー・トレード証券間の ネットワークシステム統合完了



- SBI投資先であるブロードバンドタワー社のiDCサービスをイー・トレード証券とシェア、当初の予定通り9～10月にかけて既存インフラから移行完了
- 今後の方向 : バックオフィスシステム・業務の統合化に検討着手

4. 直接的社会贡献

直接的社会貢献

全国の子童社会福祉法人への寄附金贈呈

9政令指定都市、39都道府県から本趣旨に賛同を得て、
各自治体所管の子童養護施設・乳児院等(173施設)
に対して総額**167.1百万円***の寄附金謹呈予定

(百万円)

主な寄附金実施先	資金使途	寄附金 実施予定額
北海道 子童養護施設A	老朽化した暖房・給湯用ボイラー設備の更新費用	15.4
岐阜県 子童養護施設B	焼失した施設の再建費用	20.0
沖縄県 子童養護施設C	送迎用自動車購入費用	2.0
静岡県 乳児院A	乳児の突然死症候群(SIDS)対策用、無呼吸モニター購入費用	1.2

* 税引後利益3億円以上を計上したグループ各社※が、その利益の1%程度を寄付する方針に基づくもの。
(グループ各社における機関決定を前提とする)

※純粋持株会社のソフトバンク・ファイナンスは除く

<http://www.sbinvestment.co.jp>